

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立足立東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教務主任、進路指導部主任）計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任（主幹教諭）
進路指導主任（主幹教諭）、健康・環境主任（主任養護教諭）計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
近隣小学校長、地域警察関係者、地域消防関係者、区就労支援課職員、
近隣自治会長3名、PTA会長、PTA役員OB会長 計9名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月23日（金）内部委員8名、協議委員8名
 - ①校長挨拶
 - ②自己紹介
 - ③本校の現状と課題
分掌の組織目標と計画（教務部、生活指導部、進路指導部、健康環境部）
 - ④質疑応答
 - 第2回 令和5年11月17日（金）内部委員6名、協議委員6名
 - ①校長挨拶
 - ②本校の現状と学校行事等
感染症の現状と対応、体育祭、文化祭
 - ③学校評価アンケート
・アンケートの項目と回収方法の変更について
 - ④質疑応答
 - 第3回 令和6年2月16日（金）内部委員8名、協議委員4名
 - ①校長挨拶
 - ②組織ごとの最終報告
各学年（1～3年）及び分掌（教務部、生活指導部、進路指導部、健康環境部）の最終報告
 - ③学校評価アンケートについて
・アンケート結果に基づく分析・考察
 - ④質疑応答
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
資料の事前配布により、開催実績なし。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の項目
令和4年度までの学校評価アンケートは、3年間は質問を固定し経年変化で評価していた。3年間の評価を踏まえ、質問内容と項目数を精選し、評価（回収）はすべてMicrosoft Formsで実施した。
縦軸を、8つの大項目（学校経営、教務、生活指導、進路指導、健康・環境、全体、広報、働き方改革）に分類し、大項目をさらに小項目に分類し、合計で15の小項目を設定した。
 - ①学校経営 : 教育活動の周知
 - ②教務 : 授業、学力向上、SG、体験学習
 - ③生活指導 : 行事、校則、いじめ
 - ④進路指導 : 話し合い、キャリアガイダンス
 - ⑤健康・環境 : 美化、相談
 - ⑥全体 : 学校生活の充実、入学
 - ⑦広報 : 広報活動
 - ⑧働き方改革 : 働き方改革
横軸を、教員・生徒（自己評価）と保護者・地域（学校関係者評価）に分類し、質問項目を、教員・生徒・保護者の質問数を15問とし、地域の5問とした。また地域の評価対象を、学校運営連絡協議会（地域自治会、小学校、足立区など）に加えて、特別専任講師や体験授業の施設長等に拡大した。ただし、

地域は代表者1人に変更したことで、昨年度より依頼数は減った。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・12月 全校生徒 対象：447人 回収：244人 回収率：78.2%
- ・12月 保護者全員 対象：447人 回収：71人 回収率：15.9%
- ・12月 地域 対象：34人 回収：19人 回収率：55.9%
- ・1月 教職員 対象：47人 回収：46人 回収率：97.9%

(3) 評価結果の概要及び分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

①教育活動と学校生活の意識・満足度

《学校経営計画に基づき、組織的に教育活動をしている》

85%以上の教職員・生徒・保護者が、「学校方針を知っている」と回答しているのに対して、地域は52%である。「広報活動」の地域では74%が本校の情報（体育祭等の行事や部活動による講演など）を知っているが、本校の教育方針や決まりについて知らない結果となった。学校案内の配布や地域の回覧をとおして、学校経営方針の周知を図る。

《ホームページ等による広報活動に積極的に取り組んでいる》

96%の教職員に対して、生徒・保護者・地域が80%以下である。ホームページやX（旧：Twitter）などから、本校の情報が得られることを周知する。また周知するための仕組みを構築する。

《生徒は、充実した学校生活をおくっている》

85%以上の教職員・生徒・保護者が充実していると回答している。引き続き、授業に対する満足度の数値を向上させ、学校生活の充実を図る。

《生徒は足立東高校に入学してよかったと思っている》

85%以上の生徒・保護者が入学してよかったと回答している。引き続き、100%に近づけるよう、授業や部活動の充実を図る。

《教育活動と学校生活の意識・満足度の総括》

学校活動や連絡を周知・徹底することが重要となる。ホームページ以外にも、保護者の携帯電話等に、配布物や事故発災時の対応について、メールで周知できるシステムを検討する必要がある。

肖像権の問題はあるが、学校行事の動画配信をも検討する必要がある。

メールのシステムの構築と合わせて、防災に対する取組と防災協定などを周知する必要がある。

②授業に対する満足度

《わかりやすい授業のために、教材の工夫やICT機器を取り入れている》

90%以上の教職員と生徒が、授業や教材の工夫に対して、わかりやすいと回答している。100%になるよう、引き続き、生徒がわかりやすいと実感できるように授業改善に取り組んでいきたい。

《習熟度別授業や30分授業は、生徒の学力向上に役立っている》

80%を超える教職員・生徒・保護者が、役立っていると答えている。引き続き、習熟度別授業や30分授業の充実や指導を徹底していきたい。

《スタディガイダンスは、生徒の学び直しに役立っている》

80%の生徒と保護者が役立っていると回答しているが教職員は76%である。基礎力診断テストの結果により、教職員の数値が変動すると推測できる。マナトレを活用した学力向上策を改善していきたい。

《生徒は、体験学習の授業に積極的に取り組んでいる》

85%を超える教職員・生徒・保護者が、積極的に取り組んでいると回答している。体験学習は、エンカレッジスクールの大きな特徴である。キャリア教育と結びつけた指導をホームページなどで、情報発信することにより理解推進していきたい。

《授業に対する満足度の総括》

生徒がわかる授業と教員の授業力向上について、校内外の研修を充実させる必要がある。

③生活指導に関する意識・満足度

《生徒は、体育祭、文化祭等の学校行事に積極的に取り組んでいる》

90%を超える教職員・生徒が「積極的に取り組んでいる」と回答している。しかし、保護者・地域は80%以下の数値である。広報活動との数値と連動していることから、広報活動を充実させることが重要である。

《生徒は、生活指導のきまりを守っている》

80%を超える教職員・生徒・保護者・地域が、「きまりを守っている」と回答している。しかし生徒の自由意見欄では、校則に関わる疑義の意見が多い。校則の徹底と生徒理解を促すことが大切である。

《いじめの未然防止に努めている》

85%を超える教職員・生徒・保護者が、「いじめを許さない取組をしている」と回答している。引き続き、生徒アンケートの実施をとおしていじめを許さない取組を実施していく。

《生活指導に関する意識・満足度の総括》

・学校行事を中心とした広報活動を進める。校則を踏まえた指導について、教員と生徒に周知・共有化する。

④進路指導に対する意識・満足度

《進路実現に向けて、生徒や保護者と話し合い、生徒の希望や適性を生かしている》

85%以上の教職員・生徒・保護者が、「進路（将来）について話し合っている」と回答している。引き続き、適宜、二者面談や三者面談を実施し、生徒本人の進路意識を熟成させ、家庭と連携した進路決定を進めていく。

《キャリアガイダンスは、進路決定に役に立っている》

85%以上の教職員・生徒が、「役に立っている」と回答している。しかし、保護者の回答が79%にとどまっている。また保護者の14%がわからないと回答している。キャリアガイダンスの授業を保護者に公開するなど、取組を周知する必要がある。

⑤健康・環境に対する意識・満足度

《学校の施設の整備や校内外の美化は行き届いている》

教職員・生徒・保護者・地域のすべてにおいて、肯定的な回答が75%以下である。開校して48年目を迎えるが、大規模改修をしておらず、施設の老朽化は否めない。トイレを含めて、環境整備を徹底していく。

《悩みや不安について生徒の相談に気軽に乗っている》

教職員の肯定的な回答が100%に対して、生徒・保護者が75%以下の回答であった。YSWや外部機関と連携を充実させて、相談しやすい学校を目指していく。

《健康・環境に対する意識・満足度の総括》

学校評価アンケートや学校見学会のアンケート等の外部アンケートを根拠にして、東京都に対して施設改善を強く要望をしていく。

⑥その他

《学校は、働き方改革の実現に向けて取り組んでいる》

東京都の働き方改革を念頭に、教職員が働きやすい環境を整えていく。また、ライフワークバランスの推進を具体的に進める必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ①学校生活全般において、生徒、保護者とも学校に対する満足度は高い値である。引き続き、エンカレッジの本質である「生徒を励まし力付け、学び直しの視点に基づくわかりやすい授業」を心がける。
- ②生活指導に関する数値は、年々、数値が上昇している。引き続き、校則の周知を徹底し、数値を維持もしくは向上させる必要がある。
- ③進路指導に関する数値は、昨年度と同様に良い数値である。また進路決定率も令和4年度と同様に90%以上であった。引き続き、キャリア教育を念頭にした授業の充実に取り組む。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ①外部委員から、学校の様子や教育活動がわからないという指摘を受けた。ホームページだけでなく、学校案内を配布・回覧を広範囲に広げ、教育活動の理解啓発に努める必要がある。
- ②外部委員や学校評価アンケートからも施設改善の要望が多い。学校では可能な限りの対処はしているが、実情は限界である。学校から東京都に強く要望することが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ①スキルアップ推進校の継続を受けて、外部人材を活用した4講座（職場体験、デジタルスキル講座、英検講座、文書作成講座）の推進と充実を図る。
- ②都立学校保護者コミュニケーションシステムを活用し、生徒や保護者と連携を図り、基本的な生活習慣、社会性と規範意識を身に付けさせる。
- ③ユースソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・都立版エリアネットワークを活用し、教育相談の充実を図り、中途転学や退学の減少・防止に努める。

(2) 学習指導

- ①授業参観シートを活用した教員相互の授業参観やOJTを推進し、教員の授業力向上を図る。
- ②習熟度別授業や少人数授業により個に応じた指導の充実を図っていく。
- ③基礎力診断テストによる客観的な数値に基づき、自らの学力を知り、学力を意図的かつ計画的に向上

させる方策を検討・計画する。

④若手教員や主任教諭を中心としたプロジェクトチームにより、学習指導の自己研鑽を促し、授業力の向上を図る。

(3) 特別活動

①新入生歓迎会などで部活動への参加を促進し、部活動加入率の増加と部活動の活性化を図る。

②地域のイベントに積極的に参加し、地域社会に密着した学校づくりを推進する。

(4) 生活指導

①生徒、保護者にわかりやすく指導方針を伝えるとともに、人権に配慮した指導内容の徹底を図り、学校・家庭・地域、関係機関が連携して生徒の健全な育成を行う。

②登下校時の自転車乗車における交通安全指導を徹底し、社会人として交通ルールを守る意識の向上に取り組む。また、人権尊重に基づいたSNSの適切な利用を指導・徹底する。

(5) 進路指導

①1年次から「体験学習」、「キャリアガイダンス」や各教科を通じて教科横断的にキャリア教育に取り組むとともに3年次の「人間と社会」等により、3年間を通じて計画的に望ましい職業観・勤労観を育成する

②令和6年度から、進路・学習部に名称を変更し、学力向上に向けた具体的な方策を検討し実行する。

(6) 健康・安全

①教員研修会を実施し、教育相談能力の向上を図る。

②健康講話の充実を図り、健康に対する意識向上を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
8	1	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

①令和5年度から、スマートフォンを活用した Microsoft Forms で学校評価アンケートを実施した。回答者の声として、想定よりも簡単に回答できている。引き続き、令和6年度も Microsoft Forms を活用した学校評価アンケートを継続する。

②令和4年度に引き続いて、地域の回答率が低い。回答率の向上を図るために、学校評価アンケートを実施しているねらいを明確にし、学校教育に目を向けてもらえるように広報活動を充実させる。